



もてなしの心で語る わが街

えな自慢

えな自慢
39

富田地区の農村景観

農村景観日本一



▲富田地区の農村景観

ひと口メモ

富田地区はかつて鎌倉・室町の中世と言われる時代に、岩村城の城下町があった地域。1573(天正元)年、岩村城は、武田信玄の臣で武田二十四将の一人秋山信友に攻められ、そのときにこの城下町も焼かれたと言われている。

岩村町富田地区の田園風景の農村景観日本一は、1989(平成元)年に国土問題研究会(理事長木村春彦・京都教育大学名誉教授)からの称号。マスコミが一斉に報道したことで一躍脚光を浴びた。この景観は、岩村城跡のある城山や田園を潤す水晶山・三森山などの山並みを背景として、東から西

に少し傾斜した盆地の中に、広葉樹や針葉樹の森、瓦と白壁の昔ながらの農家や土蔵、寺院や神社などが、水田の中に程よく配置。

古く美しい日本の農村景観を残しており、ふるさとの素朴な風景が鑑賞できる。秋の収穫期には、黄金色に染まった田園を舞台とした「秋の月待ちお堂めぐり」が開催される。



▲NPO法人農村景観日本一を守る会が管理運営している「茅(かや)の宿とみだ」

岩村本通り

県下3番目の重伝建

えな自慢
40



▲岩村本通り。奥の山が岩村城跡のある城山

ひと口メモ

間口の広さで課税されていたため、間口が狭く南北に細長い敷地割が多い。また、「天正疎水」と言われる用水が各家の軒下や中庭を通り、生活用水や防火用水として利用されていた。この地区は、主に地区住民の協力により保存されている。

岩村町の本通りは、1998(平成10)年に商家の町並みとして、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された。県内で3番目、全国では48番目の選定。安土桃山時代から江戸時代初めに、岩村川の南に形成されて以来4百数十年の歴史を持つ。明治維新後は岩村電気軌道の開通などにより、物資の集散地として栄えた旧城下町。東西の延長が約1.3km、面積は約14.6畧の東西に長い範囲が保存地区。ほぼ中央に位置する枅形より東側は江戸時代に栄えた商家町、西側は主に明治維新後に栄えた商店街。比較的軒の低い「厨子二階」と言われる造りが多いのが特徴で、歴史的環境を良好に保存。現在、電線類の地中化などによるまちづくり事業が、平成24年度の完成予定で進められている。



▲岩村城跡から見た岩村本通り

次号は1月15日号
発行日は1月14日(金)です

広報えな No.142
2010年(平成22年)
12月21日発行

発行 恵那市役所/編集 企画課広報広聴係
岐阜県恵那市長島町正家一丁目1番地1 ☎26-2111/☎25-6150
<http://www.city.ena.lg.jp/> ☎info@city.ena.lg.jp

『広報えな』1月1日号、1部当たりの印刷経費は約14.8円(税込み)です。



恵那市安心安全メール配信システム
登録用QRコード
□問い合わせ 防災情報課(内線317)

『広報えな』は環境に優しい再生紙を使用しています。
この印刷物は石油系インキではなく、地球に優しい植物油を使用したインキで印刷されています。

